



ここでしか、今しかできないことをやろう

◇ **今回は、塚原悠太さん（慶應義塾大学理工学部情報工学科）のレポートです！**

こんにちは。関高校を平成26年に卒業しました、塚原悠太です。

今は、慶應義塾大学理工学部情報工学科4年生で卒業後は同大学の理工学研究科開放環境科学専攻に進学予定です。今回は自身の高校、大学生活を振り返り、関高校に入学を考えている方、在学し目標に向かって勉強に励んでいるみなさんに僕から伝えたいことをまとめました。これを読んで、将来への期待と現在の勉強に対する考え方に少しでも変化があればと思います。

受験の姿勢や考え方については先輩や先生方から耳にたこができるくらい指摘されているでしょうし、いまさら僕が月並みなアドバイスをしたところで二番煎じになってしまいます。そこで先生や先輩から比較的聞く機会の少ないであろう大学生活での経験を話し、そこから今勉強に励む意味を伝えていきたいと思います。

ここでしか、今しかできないことをやろう

僕が大学に入学してから今に至るまでのモットーが、ここでしか、今しかできないことをやろう、です。そのモットーに従い、実行に移した3つのことを示します。

- 1 語学学習
- 2 海外旅行
- 3 インターン

まず、語学学習です。大学では英語以外の語学を学習できる授業が用意されています。僕は慶應だからこそ用意できた語学をやってみたく、1年次には必修の中国語と追加でアラビア語を履修し、3年次にはロシア語を履修しました。お前は文系か！と思うかもしれませんが、語学とはその国の文化、考え方を知ると同時に、その国に興味を持ち、世界を広げることのできる格好の手段なのです。実際、この語学学習で僕の興味は広がり、それを行動に移すことができました。

次に海外旅行です。大学は高校と違い、アルバイトが自由にできます。そこでお金をためることで様々な事ができるようになります。その1つが海外旅行です。僕は在学中に3回海外へ行きました。1回目は大学の授業の一環で台湾へ(このとき、勉強した中国語と受験で培った英語で現地の学生と仲を深めることができました)、2回目は海外インターンで3ヶ月間マレーシアへ行き、東南アジア諸国を一人旅し(アラビア語のおかげでアラブ系の人たちと仲良くなり、イスラム教という新しい興味対象を見つけました)、3回目はシベリア鉄道でロシア横断(ウラジオストクからモスクワまで1週間かけて移動しました)というように、時間とお金が自由に使え、体力もある今だからこそできることをしてきました。

そしてインターンも2つ行いました。1つ目は現職の川崎市議会議員に3週間同行し、選挙活動、市議会議員の日々の業務を間近に触れることができ、政治への興味関心を深めることができました。2つ目は先にも述べたマレーシアでの海外インターンです。これは日系の不動産ベンチャー企業に所属し、ベ

ンチャーの勢いと良さ悪さに触れるとともに、海外での日常生活など多くの経験をすることができました。このような少し特殊なインターンを通して普段目にするののない世界、社会人になってからでは少し敷居の高い世界を見ることができるのも学生という身分だからこそです。

このような学生生活を送った後、なぜ高校生でいくつもの科目を勉強しなくてはならないのかという疑問に僕なりの答えを出してみました。それは、人生を豊かにするためです。僕は理系なので文系科目を学んで何がよかったか挙げていきます。

古典で和歌を学んだおかげで、日本の四季をより楽しめたり、古典の舞台に足を運んだとき、感動ができたりします。漢文は君主に助言をする場面が多いですが、これは人をまとめる側になったとき、参考にできます。社会科目だと、政治の知識がないと若者の声を反映した政治をしてもらえない、歴史は過去の偉人はどのように困難に打ち勝ち、どのように没落していったのかを知れば今の日本、世界がどうなっていくか予測できます。地理を学ぶと、海外旅行がより楽しくなります。倫理はもし自分とは何か、どのように生きるべきか迷ったときの道標になります。(倫理は大学に入ってから独学でかじりました)。

また、これらの知識は知っていても何もおきませんが、知らない知識人との会話で恥ずかしい思いをしてしまいます。一見無駄だと思えることも学びを続ければ得るものはありますし、無駄な知識をつけることで知的探究心を高める訓練をしていたと思っています。

受験は辛いです。でも、それを越えると飽くなき探究心を満たしてくれる大学があります。とりあえずパソコンを閉じて英単語でもやりませんか？



これがマレーシアのレストラン。バイキング形式で適当にとって店員さんの判断で値が付きます 笑



これはお祭りで見ることのできる青いごはんです。花と一緒に炊くので香りがすごいです。



これはコピジョス。インドネシアの飲み物です。なんとコーヒーに熱々の炭を入れているのです。



インターンの同期、社員さんと。一番手前の右側が僕です。